

働く わたし流

部屋探しには毎日、いろいろな人が訪れる。家族連れや一人暮らしの学生、新婚夫婦に同性カップル。「住む場所は、暮らしそのもの。その人の事情をくみ取り、最高の部屋を見つけてあげたい」と力強く話す。

専門学校を卒業後、プロゴルファーを目指してゴルフ場に勤めた。2014年に福岡市の三好不動産に転職し、社員研修で聞いた話に心が動いた。「男性2人で入居を申し込んだが、断られた」「偏見

部屋探し LGBT支える

三好不動産店長
はら まい さん 40
原 麻衣



が怖く1人で住むとウソをついた」。性的少数者（LGBT）が簡単に部屋を借りられない現状を知った。「トラブルは避けたい」と大家が難色を示し、契約の審査は通りにくい。LGBTで

あることを親族に打ち明けられず、保証人を見つけられない人も少なくない。会社がLGBTの入居支援に乗り出そうとしていた。「私ができるしかない。いや私にしかできない」。自ら担当者に手

を挙げた。同時に、自身がバイセクシュアル（両性愛者）であることを社内で打ち明けた。最初は驚かれた。だが、会社が積極的に研修や勉強会を行い、社内の理解は広がった。「LGBTの部屋探しを支援します」。SNSで発信し、保証人の代わりとなる家賃保証会社に掛け合い、大家を粘り強く説得した。評判は口コミで広がり、相談は徐々に増えた。「2人の関係を隠さず初めて部屋探しができた」。ある男性カップルの言葉に、うれしさがこみ上げた。これ

まで約100件の入居を実現させてきた。19年からは別府店（福岡市城南区）の店長を務める。窓口には多様性を表す虹色の旗が飾られている。先進的な取り組みは業界内で話題となり、セミナーや講演に呼ばれることも多い。「みんな普通の暮らしがしたいだけ。LGBTだけでなく、誰もが希望の部屋に住める当たり前の社会になってほしい」。偏見や差別のない社会を目指し、先頭に立って走り続けるつもりだ。

（姫野陽平）

仕事を通じた願い

誰もが希望の部屋に住める社会に